

【受験生特集】—さまざまな専大ライフをご紹介します。

専修大学では、コンテストやコンクールなどで自分の可能性を試すチャンスが用意されています。

学生部主催各種コンテスト

学生部主催の各種コンテストの表彰式が1月25日、生田キャンパスで行われ、大石和男学生部長から表彰状と賞金が手渡された(表彰者は下段表)。

専大ベンチャービジネスコンテスト

ファンドマネジャー専大グランプリ

11月に行われた、専大ベンチャービジネスコンテスト・鳳賞の「3E (Every time Everywhere and Easy) Musicサーチ～音楽コンテンツの次世代検索手法～」は、学生ベンチャーの(株)アブサードスピアとの産学連携という実用性が高く評価され、また、寸劇を交えたプレゼンテーションも好評だった。

齋藤伸吾代表(ネット情報3)は「特許出願を終えたところです。今年は小林隆プロジェクトで継続研究を行い、2年以内の事業化を目指します」と抱負を語っている。

外部コンテストでも高い評価

山城暁太さん 木村恵梨子さん

同コンテストで優秀賞と、審査員のあずさ監査法人から特別賞を受賞した、木村恵梨子さん(経営3)、優秀賞と育友会長賞を受賞した山城暁太さん(同)は、日本ベンチャー協議会が12月に行ったビジネスプランコンテストでも高い評価を得た。予選を勝ち抜いた5組がプレゼンテーションを行い、山城さんがグランプリに、木村さんが審査員特別賞に輝いた。

体育会ローラースケート部に所属する山城さんは大会会場近くの畑で野菜を見て、「これだ!」と「家庭菜園」がひらめき、「面倒なことを簡単にしよう」とプランが固まっていた。審査員から高い実現性を評価され、資金提供の申し出もあったという。

友人が好きなファッションからヒントをもらったという木村さんは「決勝まで残ると思っていなかったのが、逆に気楽にプレゼンできました。思いがけない賞に驚いています」。将来はベンチャー企業で社長のサポートをしたいそうだ。

「コンテストに応募することで、学んだ幅広い知識の総まとめができました」(木村さん)、「名だたるベンチャー経営者の前でのプレゼンは度胸ができました」(山城さん)と話している。



山城暁太さん



木村恵梨子さん



専大ベンチャービジネスコンテストで鳳賞を受賞した齋藤伸吾さんのグループ「3E (Every time, Everywhere and Easy) Musicサーチ～音楽コンテンツの次世代検索手法～」



専大ベンチャービジネスコンテストとファンドマネジャー専大グランプリの受賞者たち(前列左から4人目が池本正純キャリアデザインセンター長、隣が大石和男学生部長)

「懸賞論文・文芸作品コンクール」鳳賞に輝いた二人から話を聞いた。(表彰式は12月6日。同作品集は2月中旬に発行予定。学生生活課窓口前にあります)

懸賞論文コンクール

鳳賞受賞

りそな銀行の粉飾決算ヒントに — 若井邦彦さん(商4)

受賞作の内容は「院生レベル」と高く評価された。

りそな銀行の粉飾決算が報じられた時、同銀行の株価下落が他の銀行の株価にどういった影響をもたらしたか、興味を持った。「りそな」と同じように、自己資本比率が低い銀行はやはり株価が下がった点に着目。論文に書き上げた。



「世界で唯一の自分の意見が『形』になって評価された。応募を勧めてくださったのはゼミの首藤昭信先生。先生のご指導のおかげです」と喜びを語った。

首藤ゼミでの自身のテーマは、財務情報を用いた企業分析。就職も前々から銀行と決め、「開放的な雰囲気、自分をきちんと理解してくれた」常陽銀行に決まっている。

「学生生活の思い出はゼミ活動に尽きる」と4年間を振り返る。討論、プレゼンテーション、合宿、先生や仲間たちとの交流……。活動や触れ合いの一つひとつが、大きく成長させてくれたと実感している。

文芸作品コンクール

鳳賞受賞

「ピュアな愛」冷静な描写に評価 — 小林真也さん(文3)

一気に書き上げた受賞作『狂騒』は、過激なバイオレンスと性描写が全編を覆っている。

審査員の評は賛否に分かれたが、冷静な心理描写と視線、スリリングな緊張感、卓抜な文章力と構成力が高く評価された。混乱と狼狽を誘う作品からは、ありのままの人間の本性が伝わる。



「抑圧から解放された時のピュアな愛の渴望を描きたかった」。それが自身の「根源的テーマ」だ。

好きなものは音楽、映画、サッカー、オートバイ。作家はランボー、ボリス・ヴィアン、サリンジャー。小林恭二ゼミに入って、ものを書くことによって表現する世界を呼び覚ました。小林教授からは「バランス感覚を持って。あらゆるものの集結された頂点に自分の世界を見いだせ」と言われ、心に留めている。

受賞後2作を書き上げ、いずれも行き着いたところは「絶望」。「小説は自分の分身。突き詰めるほどに辛くなるけれど、書かずにはいられない」と、次作への意欲を見せた。

→2005年度学生部主催各コンクールの結果は、[「学生生活情報」](#)ホームページをご覧ください。

「三曲研究会」に学生部長賞

結成40周年を迎え、05年度関東学生三曲連盟新人演奏会で最優秀賞に輝いた「三曲研究会」が、平成17年度学生部長賞を受賞。1月31日、生田キャンパスで表彰式が行われ、大石和男学生部長から柳本みづほ代表(文3)＝写真左から2人目＝に表彰状が手渡された。

